



十月の俳句

(2021年10月)

）

た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	目 次
10 ）	6 ）	1 ）	

< 神無月 >

秋涼，秋冷，秋晴，秋雨，仲秋，爽秋，清秋，錦秋，紅葉，神無月，衣替え，菊花，菊薫る，秋深まる，秋晴れ

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに

巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

菊の香やとげ抜き地蔵露天市
際立ちて菊の気品の立ち姿

蟻螂の脚の細さや吾が庭に
愛憎を捨ててしまつて蛍草

高速道トラック走る星流る
いのししも子供の顔はあどけなく
華やかに色を競いて毒茸

みみず鳴く土を食せよ議員達
ただ正義それなら案山子しゃべります
この予測的中稲光

運動会はちまき振つてさやうなら
君の名は昭和を想い思い草



ただ歩く越辺川土手秋入日
夫婦にもそれぞれの秋旅の先

秋高しジャージ牛の蒜山は
空高し目的もなく荒川線

金木犀香りが届く六階に
金木犀誰を誘惑香のミスト
雨となり金木犀が降り積もる

生け垣をはみ出る自由野菊かな
鬼の子はどんな記憶で生きている

松ぼっくり吾のごとくに寡黙なり
飾られて松ぼっくりのオブジエかな
新松子何故食べられぬ卵かな

老衰で静かにそっと草の花



蓼なれどどこかの派閥大毛蓼

杜鵑草豹のごとくな斑点を
手入れせずそれでも花を杜鵑草

地方へとさらば東京秋時雨
爽籟を迎えて部屋の大掃除
爽籟やダム湖静かに水の陰
友達と恋人の間秋の風

携帯のメールを整理露の夜
露けしや気づかず過ぎす蓬花

信号機眠ることなく夜長かな
ロクク酒生ぬるくなる夜の長さ
ヘッドフォン外し夜長の眠りかな

芒野は風を流して逆らわず



芒野は風のかけらを包み込み
黄金の波立つ光芒かな
芒原左に右に風に揺れ

歳とれば時に悲しく夜寒かな
黄葉を映して治水ダム湖あり
黄葉かなメール書き出し考える

雨止んでただ長くあり秋の暮れ
秋の暮限界集落いづこへか

十三夜ボダイソープで身を清め
十三夜昭和人なら青江三奈
真実を知ってどうする月がいう

柿紅葉称える時間少なけり
成り行きにまかせ伸びたる蔦紅葉
這い上がり何を描くか蔦紅葉



山火事の原因は樫紅葉

食べもせぬカボチャを育て競争す
ゆく秋はビニール傘をすべりけり
ハロウインの渋谷で電気シヨートする



モーロク俳句

モーロクしよいしよと言って秋の暮れ

モーロクし屈託多く空高く

モーロクし無事に目覚めて秋の朝

大方は秋の野山とモーロクし

秋の蚊にモーロクすれど血を与え

モーロクし皮剥き困る無花果や

友情を捨ててモーロク花野道

モーロクし葡萄の旬の過ぐるころ

モーロクし廃るるばかり藤袴

モーロクしへそ曲げている糸瓜かな

モーロクし林檎食べるに苦勞して



林檎かむ齒力失いモーロクす

零余子飯いつまで話すモーロクし
モーロクしただぼんやりと夜長かな
モーロクし葉の匂う夜長かな

モーロクしどの本能か温め酒
モーロクし捨てて今ある温め酒
モーロクし傷み身に染む温め酒
モーロクし懲りず継ぎ足す温め酒

モーロクし野ざらし風のしむ身かな
赤い羽根つけてモーロクどこへ行く

モーロクし此所は何番秋遍路
モーロクし十日の菊となりにけり

モーロクしそれでも香る金木犀



モーロクしたただただ眠く金木屋

モーロクしストレス捨てる山は秋
モーロクし知らない自分秋の闇
モーロクし締め付けられる秋の風

モーロクし記憶あるうち菊の酒
モーロクし幻想逆さ秋時雨

蓑虫の嘆きを聞いてモーロクす
モーロクし哲学無用流れ星
モーロクし夢たわいなし龍田姫

モーロクし露の世の露欲しけり
モーロクし生きる幻蚯蚓鳴く

式部の実モーロクすれば肩こらす
モーロクの二人にここに紅葉狩り



モーロクを競い鈴なり紅葉バス

がたがたと風もモーロク夜寒かな
モーロクしつまらぬ話そぞろ寒
モーロクし迷宮迷路ななかまど

つるし柿モーロクすれば生あくび
モーロクし夢に迷いて破芭蕉



たべもの俳句

歳とれば赤き林檎に嫉妬する
迷いつつ赤い林檎の皮を剥く

新米の塩おむすびや塩加減
おむすびの角をかじって秋の空
今年米生まじめなりて鼻歌も

瀬戸の島旅に憧れレモンの香
レモンの香旅に憧れ瀬戸の島

目移りすなにはともあれ柿を食う
限界集落渋柿だけは豊作に
柿熟れて皮を剥くのが難しく



栗おこわ湯気と香りのデパ地下で
焼き栗の匂い香ばし駅通路
肩がこり食べて吹き飛ぶ栗ご飯

ほくほくのフライドポテト長芋で
歳重ね持病とともにとろろ汁
とろろそば山葵をきかせむせにけり
自然薯を掘る無我夢中ゲームかな

菊の日に麻婆豆腐と紹興酒
菊の酒今は一合あればよい

秋の神田孫文偲び中華がゆ

運動会厚焼き卵頑張って
運動会ごぼう唐揚げ気に入って

トマト煮の鰯を食べてイタリアン



秋散歩横浜家系ラーメンを
菊食べて延命長寿「もつてのほか」

新豆腐街の豆腐屋絶滅種

新豆腐角すっきりの死生観

新豆腐樋口一葉死生観

鶏肉と秋の根菜デリ風

にコロツケに醤油をかけて秋の山

銀杏ときのこをたっぷり炊き込みで

椎茸で包まず作るシウマイを

晩白柚持て余してる夫婦かな

まずビール駅弁食べて空高く

料理にも無限無限と空高し

無花果の熟れてモンローウオークかな



新米を食べて思うや生涯を
月変わり急に古米と言われても

玉葱をステーキにして秋土用
酸味よしレモンたっぷりスパゲッティ
爽やかに盛り付け工夫ぬか漬も

サバ缶でさつと一品温め酒
衛星が地球くるくる林檎むく

考えずうどん煮込みの冬隣
刺身ならご飯おかわり秋の膳



